

2013年西之島沖噴火による新島の形成について（第二報）

2013年11月20日10時20分頃に海上自衛隊機により西之島の東南東約500mの海上で確認された噴火は、同日16時17分頃には新島の形成が確認された。その後も新島の噴火は継続し、島の面積は拡大を続けた。

国土地理院は、12月4日に空中写真を撮影、9日に写真判読を行い、10日に地形判読図を作成した。12月17日には再度、空中写真を撮影し、新たに地形判読図を作成した。その結果、以下の事が判読できた。

12月4日から17日にかけて旧大火口の南西から溶岩流が大量に噴出、北西、西、南西方向に流下して新島の面積は大きく拡大した。

噴出した火山砕屑物と溶岩により、12月4日時点で存在していた火口のほとんどが埋積された。その結果、火砕丘は北東方向と南西方向に拡大した。溶岩流噴出箇所と火砕丘頂部の2カ所、計3カ所に溶岩が火口から同心円状に押し出されて固まった小さな溶岩ドームが形成されている。

火砕丘頂部の溶岩ドームの位置は、12月4日時点で存在していた火口の位置と重なる。

新しい溶岩流間の凹地には、かつての海水面が溶岩により埋積されず取り残されているところがある。